

シメントに関する国内外の標準化に関する事業を始める。ISO規格のメンテナンスや関連する新たな規格の開発など京都ビジネスリサーチセンターがこれまで担ってきたTC251の国内審議団体の機能を継承する。

インフラ小委立上げ

民間資金導入を活発化

J A A M総会

日本アセットマネジメント協会(J A A M、会長・小林潔司京大経営管理大学院教授)

は7日、東京都千代田区の法曹会館で2018年度の総会を開いた。18年度から新たに、インフラファイナンス分野を活動の1つに位置付けることを決定した。従来の公的資金のみならず、民間資金のインフラ分野への導入を活発化させるため、小委員会を立ち上げ、普及方策の検討とデューデリジェンス(資産調査)制度の開発を進める。

小林会長は「アセットマネジメントは世界的にも非常な勢いで動いている分野だ。日本ではスタートしてまもなく



市場としても小さいが、しっかりとした市場を確立していきたい」と強調した。写真。

来賓としてあいさつした国土交通省の森昌文技監は「地域からは技術力や技術者、費用が足りないという声をいただいているが、抜本的な対策には至っていない」とした上で、「アセットマネジメントの考え方を全国的に展開することが必要だ」とJ A A Mの活動に理解を示した。

18年度から組織体制を刷新し、これまで一体的に行ってきた各事業について、それぞれを担当する委員会を設けて調査研究の充実を図る。成熟度評価小委員会では日本型の成熟度評価手法の開発、情報委員会とアプリケーション小委員会では劣化予測モデル「京都モデル」の普及・開発を進める。

国際委員会はアセットマネ